

平成25年度さが水ものがたり館運営業務委託

成果のまとめ

平成26年3月

特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

1. 業務の概要

- 1) **業務名** 平成25年度さが水ものがたり館運営業務委託
- 2) **業務期間** 平成25年4月1日～平成26年3月31日まで
- 3) **目的** 本業務は、「さが水ものがたり館」（以下「館」という）において、成富兵庫茂安、石井樋に関する歴史資料及び嘉瀬川流域の防災関連資料等の収集整理・企画展示を行い、佐賀平野の治水・利水について地域住民への周知と理解促進を図ることを目的とする
- 4) **運営目標** 次の運営目標を掲げてさが水ものがたり館を運営した。
 - ① 成富兵庫茂安から現代に続く水の歴史と、水の重要性と怖さを次世代に伝える。
 - ② 防災・減災の技術とシステムについて、地域の人々とともに考え、災害に備える。
 - ③ 「上流は下流に心を配り、下流は上流に感謝する」（宮崎善吾元佐賀県副知事）「水恵無限」（姉川治元嘉瀬川ダム対策協議会会長）を導きの言葉として、嘉瀬川ネットワーク意見交換会などを企画し、嘉瀬川上下流交流に取り組む。
 - ④ 川の魅力を体感できる体験型学習会、防災・歴史ウォーキング等のイベントを開催し、水の魅力と怖さを次世代に伝える。
 - ⑤ 全県的に組織された佐賀水ネットの一員として、嘉瀬川ネットワークの拠点機能の役割を果たす。
 - ⑥ 筑後川、矢部川などの有明海に流入する河川、那珂川、室見川などの博多湾に流入する河川で活動する諸団体との交流を深める。

5) 業務内容

1. さが水ものがたり館の運営：

当初計画通り、月曜休館日（月曜日が祝日の場合は火曜日が休館）を除く週6日、館を開場し、展示物の展示、来訪者への説明、各種イベントの開催、館の清掃等を行った。

平成25年度の年間総来場者数は、2月までで17,550人で、最近5年間で最も来館者数が多かった。月別にみると、4月の来館者数が他の年度に比較して700人から1000人以上も多かったのは、石井樋公園の桜の満開時期が比較的長く、週末に非常に多く

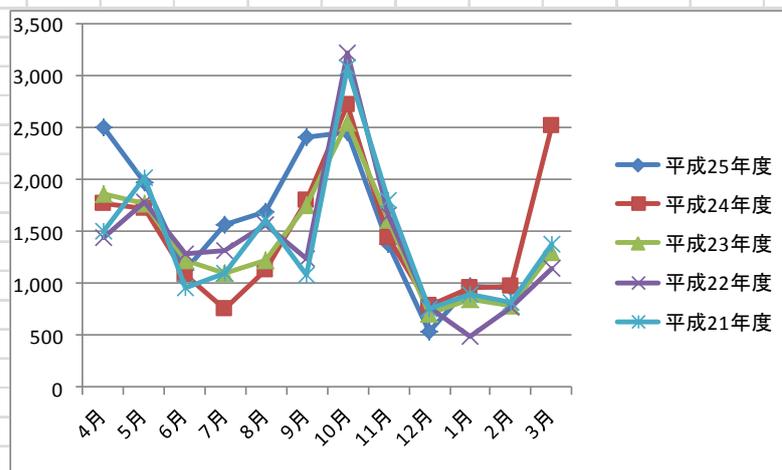
の来訪者があったことが大きく貢献している。石井樋公園と多布施川公園の魅力を高め、リピーターを増やすことができれば、さが水ものがたり館の来訪者も増加することが理解できる。また、例年に比べて7、8、9月の来館者数が多かった。夏休み期間を中心に多くのイベントを開催したことが、来館者数増につながったと考えられる。秋から冬にかけての時期は、例年と変わらない安定した来館者数があった。

今年度は図書閲覧室のスペースを利用して、嘉瀬川ダム・上流部、嘉瀬川中流域、嘉瀬川下流域と有明海の風景およびさが水ものがたり館周辺でみられる水鳥、有明海の水鳥について、ひと月ごとに内容を変更して写真展を開催して

予算等の関係で水ものがたり館の主要な展示物は、開館以来一度も替えられていない。展示物目当てのリピーターが期待できるような施設ではないが、できる範囲で展示物の充実を図り、来館者の満足度を高めるとともに、館の来館者数の大きな部分を占める小学生の来館者を確実に確保するための努力が必要である。

平成25年度来館者数の過年度との比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年度	2,502	1,969	1,124	1,571	1,681	2,407	2,452	1,380	541	971	952		17,550
平成24年度	1,762	1,715	1,079	754	1,123	1,797	2,717	1,436	787	958	979	2,507	17,614
平成23年度	1,854	1,772	1,227	1,100	1,220	1,748	2,552	1,605	711	852	786	1,307	16,734
平成22年度	1,439	1,782	1,281	1,321	1,569	1,241	3,218	1,650	777	497	776	1,151	16,702
平成21年度	1,504	2,012	960	1,093	1,613	1,089	3,068	1,799	762	900	814	1,381	16,995



2. 石井樋地区歴史資料収集整理：

石井樋に関係する水に関する歴史資料を収集し、その整理を行った。

- 「嘉瀬川交流塾」で歴史テーマを取り上げ、講演資料を公表する

毎月1回テーマを定めて講演をお願いしている嘉瀬川交流塾の平成24年度のテーマとして、①嘉瀬川流域の歴史を学ぶ ②佐賀平野の水問題を考える、③災害に備える、の3テーマを掲げ実施した。表に示すように、歴史が6回、災害が3回、水問題が3回と、参加者の関心の高い歴史に重点を置いて実施してきたことがうかがえる。講演に用いられた配布資料、プレゼンテーション資料は、講演者の承諾を得てすべて収集保存し、資料を請求された方には、無料で配布した。これらの資料はいずれも貴重なものであるので、基本的には公表することが望ましいが、著作権の問題、国土交通省からの受託業務を公表してよいか等、克服すべき問題があったため、館内配布にとどまっている。

○佐賀平野の戦後水利事業を記録する（宮地・正木対談）

趣旨

計画から40年を経て、平成24年3月に嘉瀬川ダムが竣工し、筑後川下流用水事業、佐賀導水事業と続いた佐賀平野水システム再構築事業は、完成を迎え、成富兵庫茂安が治水・利水事業に着手して400年、佐賀平野の水システムは新たな広域治水・利水システムに生まれ変わった。

成富兵庫茂安が400年前に構築した水システムは、拡充・改変を繰り返しながらも、その基本構造は変わらずに運用されてきた。その水システムを大きく変化させたものは、北山ダム、筑後川下流用水事業、佐賀導水、嘉瀬川ダムと続いた一連の水利事業である。

嘉瀬川ダムの完成を機に、これら一連の事業に企画の段階からかかわってこられた先輩に、その発想の原点、問題となった点、利害調整の経緯等にお話を伺い、記録保存することとし、平成24年度に事業を実施したが、今年度も継続して対談記録を行った。

日時	6月8日（土）午後2時～午後5時
場所	さが水ものがたり館
主対談者	宮地米蔵（久留米大学名誉教授） 正木裕美（元佐賀県農林部長）
参加者	服部二郎（嘉瀬川交流軸）川上義幸（嘉瀬川交流軸） 光武富雄（嘉瀬川交流軸）遠田勝美（嘉瀬川交流軸）
司会進行	荒牧軍治（嘉瀬川交流軸）

対談概要

対談内容を、昭和20年以降に実施された水利事業に限定することとし、佐賀平野の基幹水利事業である北山ダム、筑後川下流用水事業、佐賀導水事業、嘉瀬川ダムについて以下の事項について経過をお聞きした。

- ①その事業を始めたいと思った動機及び背景について
- ②その事業推進の初期段階で立ちはだかった障壁について
- ③その事業決定に最も寄与した事項（人、もの、金など）はなんだと思われるか
- ④事業実施中にぶつかった困難にはどのようなものがあるか

対談全部を録音し、活字にして保存した。現在どのように公表するかについて検討している。

3. 郷土学習支援：

郷土の偉人成富兵庫茂安を学びに来訪する小学生を対象に水の歴史と大切さ、怖さを伝えることを目的に、来訪する小学生を対象に郷土学習の支援を行った。郷土学習支援で話した内容は以下のようなものである。

- 1) 水には、命を奪い、建物を流してしまうような「怖い水」の面と、すべての生物にとっての「命の水」の両面があることを理解してほしい。東日本大震災の被害を大きなものにしたのは、津波と云う「怖い水」であり、避難所に逃げ込んだ人々に最初に配られた水は「命の水」の方である。
- 2) 佐賀平野で考えられる災害の多くは水に関連したもので、これまでも、台風・洪水・高潮などで多くの命を財産が奪われた。
- 3) 生活用水、農業用水を確保するためにこれまでに多くの努力が続けられてきた。今から400年ほど前の武将・成富兵庫茂安は、佐賀平野全体に水を配るシステムをほぼ完成させ、佐賀では「水の神様」として敬われている。
- 4) 成富兵庫茂安が筑後川沿いに構築した「千栗土居」は、佐賀平野と佐賀城下を洪水から守ると同時に、広大な水田を確保することができた。しかし、久留米藩にとっては、自分の藩の方の土地の洪水危険性が増したこととなり、両藩対立の火種となった。
- 5) 茂安は、有明海と佐賀平野を区分する松土居を設計・施工し、海からの高潮被害等を防ぎ、水田を確保した。また、3段のダム・永池堤（ため池）を設けて、白石平野の農業用水を確保したが、その後、江戸時代から、明治大正昭和にかけて干拓事業が続けられて来たため、白石平野は慢性的な水不足に悩まされてきた。それを克服するためにポンプが導入されたが、副作用として広域的な地盤沈下が発生したため、新たな水の確保が必要となり、嘉瀬川ダムが建設された。平成24年3月、嘉瀬川ダムは完成し、6月から白石平野に水が送られるようになった。
- 6) 茂安が松浦川に築いた桃川の馬の頭は、伏越と呼ばれる逆サイフォンの原理を利用したもので、これほど大規模なものは非常に珍しい。
- 7) 取水施設・石井樋は、嘉瀬川左岸に送る水を嘉瀬川から引き込むための施設で、大井手堰、象の鼻、天狗の鼻、石井樋などの施設群からなっている。石井樋は、佐賀藩にとっては命綱なので、洪水や砂の堆積で施設が使われなくなるのを恐れて、様々な工夫が盛り込まれている。

小学生来館者数の推移

小学生の来館者の推移を次表に示す。

		小学校来館者数の推移													
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年度	佐賀市内	来館校数	0	0	0	2	0	4	2	7	0	3	0	0	18
		来館人数	0	0	0	145	0	356	96	300	0	213	0	0	1110
	佐賀市外	来館校数	0	12	3	0	0	7	24	2	0	0	0	0	48
		来館人数	0	602	189	0	0	337	1316	174	0	0	0	0	2618
来館者数合計			0	602	189	145	0	693	1412	474	0	213	0	3728	
平成24年度	佐賀市内	来館校数	0	0	2	0	0	7	0	3	1	1	2	3	19
		来館人数	0	0	110	0	0	659	0	89	60	90	97	287	1392
	佐賀市外	来館校数	0	11	5	0	0	7	22	5	2	0	0	0	52
		来館人数	0	604	335	0	0	381	1150	354	74	0	0	0	2898
来館者数合計			0	604	445	0	0	1040	1150	443	134	90	97	287	4290
平成23年度	佐賀市内	来館校数	0	1	3	3	0	3	1	5	1	1	1	3	22
		来館人数	0	65	133	153	0	131	81	360	38	134	113	126	1334
	佐賀市外	来館校数	0	10	6	0	0	6	24	6	0	2	0	1	55
		来館人数	0	674	315	0	0	448	1174	374	0	44	0	21	3050
来館者数合計			0	739	448	153	0	579	1255	734	38	178	113	147	4384
平成22年度	佐賀市内	来館校数	0	0	2	0	0	1	3	3	1	0	0	1	11
		来館人数	0	0	82	0	0	10	196	94	20	0	0	49	451
	佐賀市外	来館校数	0	14	5	0	0	7	29	5	2	0	0	0	62
		来館人数	0	656	351	0	0	306	1774	367	115	0	0	0	3569
来館者数合計			0	656	433	0	0	316	1970	461	135	0	49	4020	

佐賀市内からの来館する小学生数は、平成22年度451名から平成23年度1334名、平成24年度1392名と一気に3倍増を果たした。昨年は、この要因が佐賀市教育委員会の財政的支援が手厚くなったこと、特に2,3月にバス代の補助があったことで、平成22年度までには見られなかった2、3月の来館者が急激に増えたと分析した。ところが今年度は2、3月の佐賀市内からの来館者数はゼロで、平成22年度と同じ状況に戻ってしまった。佐賀市の貴重な宝である石井樋・成富兵庫茂安を次の世代に伝えるために、ぜひ石井樋見学に対する支援を復活させてほしい。

佐賀市以外からの小学生の来館者は減少傾向にある。先生方に伺うと、武雄宇宙科学館等の魅力的施設が各種イベントを開催するため、そちらに流れているのではという話をされていた。

4. 嘉瀬川交流塾：

表一に示すような日程で、毎月1回（原則第3土曜日）、嘉瀬川の歴史、自然、治水・利水等について、講話会を開催した。今年度は、次の3つのテーマで企画を行った。

- 1) 佐賀平野の災害に備える 3回
- 2) 佐賀平野の歴史を学ぶ 6回
- 3) 佐賀平野の水問題を考える 3回

これまでのアンケート結果を見ると歴史に興味を持つ参加者はいつも多く、根強い人気を有している。さが水ものがたり館の国土交通省の位置づけが「防災施設」であること

から防災に関する講演を3つ確保したが、「佐賀平野の歴史」の中でも、水利用と同時に防災についても述べてもらい事業発注者の要請に応えた。

平成25年度嘉瀬川交流塾開催実績

開催日	時間	事業名	タイトル	講師等
4月20日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾4月例会	佐賀平野の歴史を学ぶ① 「佐賀平野はどのようにしてできあがったか」	さが水ものがたり館 荒牧 軍治
5月18日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾5月例会	佐賀平野の災害に備える① 「クリークの秘めた力ー山と平野が相互に補完し合う県土の保全ー」	さが水ものがたり館 服部二朗
6月15日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾6月例会	佐賀平野の水問題を考える① 「森を活かす道を探る」	NPO代表 森林をつくろう 理事長 佐藤和歌子
7月20日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾7月例会	佐賀平野の歴史を学ぶ② 「歴史と共存する川ー石井樋復元を願みるー」	九州大学教授 島谷 幸宏
8月17日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾8月例会	佐賀平野の災害に備える② 「『28水』から60年、改めてその意味を考える」	さが水ものがたり館 荒牧 軍治
9月21日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾9月例会	佐賀平野の歴史を学ぶ③ 「邪馬台国九州説」	徴古館館長 高島忠平
10月19日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾10月例会	佐賀平野の災害に備える③ 「嘉瀬川防災今昔物語」	佐賀大学 大串浩一郎
11月16日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾11月例会	佐賀平野の歴史を学ぶ④ 「佐賀の祭りの系譜ー収穫祭と鎮魂祭ー」	前さが水ものがたり館館長 金子信二氏
12月21日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾12月例会	佐賀平野の歴史を学ぶ⑤ 「佐賀の石垣技術とヨーロッパ技術との出会いーデ・レイケ導流堤」	NPO法人大川未来塾理事 本間雄治
1月18日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾1月例会	佐賀平野の水問題を考える② 「川は生き物」	筑後川河川事務所長 渡部秀之
2月15日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾2月例会	佐賀平野の水問題を考える③ 「佐賀の人々は農業用水をどう確保してきたか」	さが水ものがたり館 服部二朗
3月15日 (土)	13:30～15:00	嘉瀬川交流塾3月例会	佐賀平野の歴史を学ぶ⑥ 「成富兵庫の時代の佐賀藩」	さが水ものがたり館 荒牧 軍治

毎回、佐賀市報に開催日時、開催テーマ等の広報記事を掲載して、広く市民に参加を呼び掛けている。市報を見て初めて参加される方もおられて、講演終了後の意見交換会で「このような有意義な講演会を、無料で聞くことができ大変ありがたく思っています」との意見も出るなど、参加者からは非常に高い評価を受けている。終了後にアンケートをお願いし、講演間に対する感想、今後開催して欲しいテーマなどを記載していただき、以後のテーマ設定に利用している。

今年度の参加者一覧を次に示す。40名定員での募集に対し6割程度の参加者にとどまっている。単位制度を設け、修了証を授与するなど、固定したな参加者を確保する方法もあるが、わずか40名の会場なので、一般市民の参加を阻害する危険性もあることから、安易に導入すべきではない。参加者募集の方法については総合的に検討する必要がある。

平成25年度嘉瀬川交流塾参加者数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	23	23	18	35	26	32	23	15	18	28	20	28	289
24年度	16	16	21	22	22	23	21	14	26	26	25	19	251

5. 体験型学習会

■実施概要

嘉瀬川とその流域の河川環境について楽しく学び理解することを目的に、生物環境と歴史環境を中心に、主として石井樋公園及びさが水ものがたり館をフィールドとして、合計13回の体験型学習会を計画したが、8月に実施予定の「子供向け水の科学」は前夜強風に見舞われたため、安全確保の観点から中止を決断した。

対象者：一般市民・小中学生

平成25年度体験学習会						
開催日	時間	事業名	内 容	講師等	実施場所	参加人数
7月7日(日)	9:30~13:00	七夕祭り～竹と遊ぼう～	竹の切りだし、水鉄砲、竹とんぼ、七夕飾り	多良正浩NPO法人さざんか塾代表	さが水ものがたり館	16
7月15日(振休)	9:00~12:00	音無湿地でトンボ・水生植物観察会	トンボの採集、水辺の撮影、myトンボ図鑑・植物図鑑の作成	東 和敬 佐賀大学名誉教授 井上英幸 植物友の会顧問	嘉瀬川ダム上流音無湿地帯	24
7月28日(日)	9:30~13:00	「川の楽校～石井樋カヌー教室」次和中学との連携	ライフジャケット着用川流れ、ロープ使用法、カヌー・ゴムボート訓練	大和中 南里先生 村崎 西日本環境ネットワーク	石井樋公園象の鼻周辺	12
8月4日(日)	9:30~13:00	子供の石井樋フェア～カヌー教室～(一般募集)	ライフジャケット着用川流れ、ロープ使用法、カヌー・ゴムボート訓練	村崎 西日本環境ネットワーク	石井樋公園象の鼻周辺	20
8月10日(土)	9:30~12:00	嘉瀬川の水生生物観察会	水生昆虫の採集、撮影、my水生昆虫図鑑の作成	長崎大学水産学部学生 天谷 貴史氏 他3名	石井樋大井手堰直下水域	28
8月25日(日)	9:30~13:00	子供向け水の科学 水学+生き物	大雨洪水警報発令につき集合後、中止			
9月15日(日)	9:30~13:00	家庭でできる防災対策～1日だけは自分の力で生き延びよう～	ボタンを用いた情報取得、小型土嚢の作り方、積み方、非常食の準備 試食	国交省、水ものがたり館職員等	さが水ものがたり館	13
9月20日(金)	18:00～	観月会～秋の夜空を楽しもう～	望遠鏡を用いた月の観察、月の見え方模倣作り	荒牧軍治、服部二郎 宮崎順子	さが水ものがたり館	22
10月14日(日)	9:00~16:00	成富兵庫茂安の事蹟を巡るバスツアー	桃川の馬の頭、大日堰	荒牧軍治、服部二郎 佐賀水ネット代表井上一夫他	さが水ものがたり館→現地	38
10月27日(日)	9:00~12:00	嘉瀬川 多布施川 歴史ウォーキング	多布施川	志田佐賀市河川砂防課長	さが水ものがたり館→現地	11
11月9日(土)	9:30～	石井樋ミニキャンプ	防災学習ハイキング、ツリークライミング、木登り	ボーイスカウト佐賀県連	石井樋公園周辺	8
12月2日(日)	9:30~16:00	院後川と成富兵庫茂安を巡るバスツアー	白石神社～千栗神社～千栗堤～柳川～大川～木補強水路(神埼)	荒牧軍治、服部二郎 本間大川未来塾理事	さが水ものがたり館→見学場所	42
1月12日(日)	9:30~13:00	石井樋公園水鳥探鳥会	野鳥に関する基礎知識の習得 野鳥の観察	青柳日本野鳥の会佐賀支部	石井樋公園周辺	14
2月9日(日)	10:00~12:00	防災・治水利水に関する講座 親子防災教室実践編	学校から自宅までの安全な帰宅路の決定、避難場所の確認	宮崎順子	さが水ものがたり館	9

第1回：7月7日(日)「七夕祭り～竹と遊ぼう～」

これまで竹を用いた各種のイベントを実施してこられた東脊振の多良正浩NPO法人さざんか塾代表の指導を受けて、石井樋公園内の真竹の切りだし、水鉄砲、七夕飾りの制作、竹を用いた炊飯など、竹と遊ぶイベントを開催した。参加人員22名

第2回：7月15日(振休日)「音無湿地でトンボ・水生植物観察会」

昨年度も指導いただいた東和孝佐賀大学名誉教授、井上友幸植物友の会の指導を受けて、嘉瀬川ダム上流につくられた音無湿地で、トンボ採集を行うグループとデジカメで植物を撮影するグループに分かれ、現地採集を行った。嘉瀬川ダム管理事務所の展示室で資料を整理し、マイトンボ図鑑、マイ植物図鑑を作成した。参加人員24名

第3回：8月19日（日）「水の楽校～石井樋カヌー教室～」(大和中学の連携)

大和中学校の1年生に参加を呼びかけ、NPO法人西日本環境ネットワーク村崎詩園氏をインストラクターに迎え、川を安全に楽しむ方法についての講義の後、ライフジャケットを着用した川流れ、カヌー教室等を行った

参加人数 参加者12名+スタッフ14名+指導者5名

第4回：8月4日（日）「子供の石井樋フェアカヌー教室」(一般募集)

市報により公募した一般参加者を対象に、インストラクターの指導の下、ライフジャケットを着用した川流れ、カヌー教室等を行った

参加人数 20名+スタッフ12名+指導者5名

第5回：8月10日（土）「嘉瀬川の水生物観察会」

長崎大学水産学部3年生の天谷貴史君の指導を受けて、大井手堰直下で、水生昆虫の採集を行い、写真撮影の後、採集ビンにアルコール保存を行った。撮影した水生昆虫を印刷し、図鑑等を参考にしながらマイ水生昆虫図鑑を作成した。

参加人数 28名+スタッフ12名+指導者5名

8月25日（土）「子供向け水の科学」

前夜の強風により、安全確保のため開催を中止した。

第6回：9月15日（日）「家庭でできる防災対策

—1日だけは自分の力で生き延びよう—

日本国中どこでも、いつでも災害が起こる可能性がある。佐賀で考えられる災害は、台風、洪水、高潮など、水の災害の起こる可能性が最も大きい。佐賀平野で発生する水災害でどのような被害が起こるかを知り、その災害に家庭でどのように備えておけば危機を乗り越えられるかについて考えた。少なくとも各家庭で1日は生き延びるために、何を準備しておかなければについて学習し、非常食の試食、防災グッズの使用法確認等の実習を行った。

第7回：9月20日（日）「観月会～秋の夜空を楽しもう～」

中秋の名月の翌日（十六夜の月）午後7時にさが水ものがたり館に集合して観月会を行った。太陽と地球と月の位置により三日月や満月になること、海に館長と満潮が表れることなどを学習した後、天体望遠鏡や双眼鏡を用いて十六夜の月の表面を観測した。

参加人員22名

第8回：10月14日（日）「成富兵庫茂安の事跡を巡るバスツアー」

佐賀平野に残る成富兵庫茂安ゆかりの地（白石神社・千栗神社）と、茂安から現代へとつながる水関連事業（千栗土居・筑後川水利施設・クリーク木補強作業現場）を巡り、我々が暮らす佐賀・筑後平野の水システムが、長い年月をかけ多くの人の手によって気づきあげられてきたことを学習した。

第9回：10月27日（日）「嘉瀬川（多布施川）歴史ウォーキング」

石井樋で取水した水がどのように利用されているかを探るため、さが水ものがたり館を出発して多布施川沿いに水門位置を確認しながら、多布施川と天祐寺水路との分岐点までを往復ウォーキングを行った。夫々の水門では、志田佐賀市河川砂防課長から取り込まれた水がどの地区で利用されているかについての説明を受けた。

参加人員11名

第10回：11月9日（土）「石井樋ミニキャンプ」

野外活動のノウハウを有するボーイスカウトの指導を受けて、石井樋公園周辺で防災を念頭に置いた、野外活動の基礎訓練を行った。簡単たん地図と木片による指示などの手法を用いたオリエンテーリング、ロープクライミング・木登りなどを、ロープとハーネスで安全を確保しながら実施した。参加した子供たちは、これまでに経験したことのない高度な技術も容易にマスターし、心から楽しんでいたのが印象的であった。

参加人員11名

第11回：12月2日（日）「筑後川と成富兵庫茂安」を巡るバスツアー

佐賀平野に残る成富兵庫茂安ゆかりの地（白石神社・千栗神社）と、茂安から現代へとつながる水関連事業（千栗土居・筑後川水利施設・クリーク木補強作業現場）を巡り、我々が暮らす佐賀・筑後平野の水システムが、長い年月をかけ多くの人の手によって気づきあげられてきたことを学習した。参加人員42名

第12回：1月12日（日）「石井樋公園探鳥会」

日本野鳥の会佐賀支部の支援を得て、石井樋公園における探鳥会を行った。最初に青柳日本野鳥の会会員から石井樋公園周辺で観察できる鳥の種類と特徴について講義を聴いた後、双眼鏡を用いて探鳥調査を行った。気温が下がって厳しい環境であったにもかかわらず、30種以上の野鳥を観察することができ、冬の石井樋公園が野鳥観察に適した場所であることを確認できた。

参加人員14名

第13回：1月2日（日）防災・治水水利に関する講座「親子防災教室実践編」

日常や非日常に潜む危険・災害について理解しながら、ケーススタディ

では、「大雨洪水」に対する自宅と学校の登下校ルートをたどる「防災マップ」の作成を学童自らに課した。

作成にあたってのポイントは、①ひくい所にはいかない！②あわてず、しっかり、じぶんを守る ③かぞくがあつまるばしょは？④じょうほうを見る・知る！を踏まえ、ルート上で「町を知ろう」「あぶないってどこ？」「どこににげる？」と、保護者とスタッフもいっしょに参加して、楽しくにぎやかに学習しながら、自分でつくる防災マップを完成させていった。

防災講座を受け身で学ぶことに留めず、身近な生活環境で遭遇する危険に対する認識と適切な判断に基づく行動が出来ることが重要であることを学習することができた。学童自らが主体的に作成する防災マップは、自助能力を高める防災教室の目的達成にかなうものとして有意義な取り組みであった。

参加人員 9名

■効果等まとめ

河川環境問題を多角的に学習することを目的に、13回の体験型学習会を実施し、参加延べ人数257名で、1回あたりの参加者数は20名であった。昨年が5回の体験型学習会を実施し、参加延べ人数110名で、1回あたりの参加者数は18名であった実績と比較すると、実施回数も一回当たりの参加者数も大きく上回った。

アンケートに見られるようにいずれのイベントも好評で、水に触れあう体験型学習が持つポテンシャルの高さを十分に感じる事ができた。特に、水を科学する、トンボを探そう、植物探訪と云った生物系のイベントは子供たちに好評で、子供を水環境問題に引き入れるには「生物」から入ることが有効であることが理解できた。

昨年同様、子どもの石井樋フェアで実施した「ライフジャケットを着けた川流れ」は、子供にとってばかりでなく、大人にとっても興奮する体験で、水の流れを身体で体感し、流れに逆らわず岸にたどり着くなど得られるものは多かった。水難事故防止の高い効果がみられる学習会であったが、安全確保のため参加者数と同じくらいのスタッフが必要なので、気軽にはできないが、「象の鼻と天狗の鼻を巡る川流れ」は嘉瀬川を象徴するイベントに成長することができたと自負している。

水恵無限を巡るバスツアーは、これまで佐賀平野を見続けてきた高齢者の方々に好評で、現在の水システムの完成までには多くの人の努力と長い時が必要であったこと及び嘉瀬川ダムの治水利水効果が十分に理解された。

体験型学習会は、水の持つ多面的な性質を学習するには最も適した方法であり、参加者はおおむね内容を理解できたようなので、今後とも拡充していくことが望まれる。

体験型学習会の経験を蓄積し、プログラム内容を充実して、教育機関や各種団体にそのノウハウを伝えることにより、嘉瀬川に多くの人が集まるきっかけとなる。これら体験型イベントを持続的に実施する際の最大の課題は、どのようにして若いスタッフを集めるかである。若いスタッフが積極的に参加しているイベントは、参加者にも活力を与え、次のイベントへと繋がる種子となる。

6. 地域支援事業：

1) 嘉瀬町水環境復活作戦

■実施概要

鈴木嘉瀬町自治会長から、森林公園に蛍を復活させたいとの提言があり、現地調査を行った。蛍復活を行う場所として自然池北端部を視察し、井戸水を揚水し、水路又は管路で自然池に導入する案について検討した。その際、森林公園の池の水は、公園内に降る雨水だけを集水したものであり、水質維持の点では問題が多いとの説明もあった。

討議を行う過程で、蛍復活作戦は継続するとしても、森林公園の水環境を良くし、嘉瀬町、久保田町を中心とする佐賀西部域の活性化につなげる作戦も同時に検討しても良いのではとの意見が多く上がった。森林公園をはさむ嘉瀬町と久保田町が共同で公園内の水環境の再創造に取り組むことにより、佐賀市西部域を盛り上げる活動を開始することとした。

■活動の方向性

- 1) 森林公園内のため池（自然池他）の水質を改善し、蛍が飛ぶ水環境を創造する
- 2) ため池群の水質を改善するため、嘉瀬川から堤防を越えて導水し、自然池を循環して、嘉瀬大堰下流部の水門より嘉瀬川に戻す。
- 3) 嘉瀬川から導水することについて国土交通省九州地方整備局の担当者に打診したところ、「嘉瀬川に水に戻すので、可能性はある」との感想を聞いた。
- 4) 嘉瀬町・鍋島町・久保田町が共同で「森林公園に蛍の飛ぶ水環境を創造する」と宣言し、活動を開始する。
- 5) 佐賀県は、どのような方法で水を導入することが可能か、専門的な立場から検討し、案を提案する。
- 6) 嘉瀬川交流軸は、一連の計画のシナリオを作成するとともに、活動の事務局を担当する。
- 7) 25年度末に、嘉瀬町・鍋島町・久保田町共同で、「防災と水環境」に関するシンポジウムを開催し、活動の方向性を市民に公表する。
- 8) 同時に、嘉瀬川と森林公園を中心とした、佐賀西部地区活性化の方策についても検討する

■森林公園水環境創造検討委員会

検討委員会を次のようなメンバーで構成した。

鈴木 茂和	嘉瀬町自治会長
城野 真澄	嘉瀬公民館長
三島 元春	久保田町自治会長
久野 英徳	久保田まちづくり協議会準備委員会委員長
池田 一徹	鍋島公民館館長
橋本 辰夫	森林公園公園長
高垣 和博	佐賀土木事務所街路公園課長
山口 和晃	佐賀土木事務所街路公園課 街路公園係長
荒牧 軍治	さが水ものがたり館館長
服部 二郎	さが水ものがたり館
堤 智美	国土交通省筑後川河川事務所施設管理課
中島 忠	国土交通省筑後川河川事務所防災対策推進官

■平成 25 年度の活動実績

1 2 月 5 日（木） 午後 3 時～5 時 第 1 回検討委員会 森林公園管理事務室

以下の事項について検討した

○森林公園の水質を改善する

- ・水の出入りを検証する
- ・水源（地下水・表面水）を探す
- ・全体設計を考える
- ・工程表を作成する

○蛍復活作戦を考える

- ・蛍復活のこれまでの取り組みと今後の方向性
- ・財団等からの補助金の獲得（北部九州河川利用協会 2 年目）

1 月 10 日（金） 午後 3 時～5 時 第 2 回検討委員会 嘉瀬公民館

第 1 回検討委員会で検討した再検討し、第 1 次案を作成した。

2 月 2 3 日（日） 嘉瀬・鍋島・久保田 3 町連携水環境シンポジウム 嘉瀬公民館

テーマ：「嘉瀬川両岸が連携して下流域の水環境を創造する

—森林公園をモデルケースとして—

基調報告 「嘉瀬川下流域の水の流れ」 服部二郎嘉瀬川交流軸事務局長

「森林公園水環境復活作戦」 荒牧軍治さが水ものがたり館館長

パネルディスカッション

「嘉瀬川下流域の水環境の創造に向けて」

パネリスト： 検討委員会委員

2 月 2 8 日（金） 鍋島公民館で「水に関する講演」 荒牧館長

7. その他事業：

事業計画書に記載した事業以外に、佐賀及び九州の水に関連した事業を実施した

1. 九州災害時救援・支援ネットワーク構築に関する基礎調査

近年の異常気象に伴う局地豪雨は、従来の河川管理者による施設計画を大きく上回る規模で発生し、水害リスクの増大を招いている。しかし、いざ災害が起こった場合には個人の防災力だけでは限界があり、多くの協力者の支援が必要となる。阪神淡路大震災以降、災害時にボランティア支援を希望する人々が急増したが、その受け入れ態勢がどうあるべきかについて必ずしも十分な理解が進んでいるとは言い難い。

幸いにも、九州には環境から災害へとテーマを変えながらも、長年にわたって連携を継続してきたネットワークの基盤があり、川内川、五ヶ瀬川等の災害及び平成 24 年 7 月の九州北部豪雨での経験も有している。これらの基盤と経験を活かしつつ、災害時救援・支援ネットワークを構築するための基礎調査を 3 年計画で実施することとし、本年度は以下の調査を行った。

1) 平成 18 年川内川激甚災害調査

九州における河川活動の中核となっている NPO 法人等が平成 18 年に大水害を受けた川内川現地に集い、当時の状況と復旧に関する調査を行い、今後の方向性に関する討議を行った。

2) 九州河川災害ネットワーク交流会議（筑後川フェスティバル同時開催）

各河川で活動している NPO 法人、企業、国土交通省等の参加を得て、平成 25 年 10 月 16 日に開催された筑後川フェスティバルにあわせて九州河川災害ネットワーク交流会議を南小国町で開催し、上記激特事業の調査報告及び前年度に実施した災害ボランティアの実施状況の報告を行い、討議を行った。

3) 平成 17 年五ヶ瀬川激甚災害事前調査

平成26年度に九州各地のNPO法人等に呼びかけ、平成17年五ヶ瀬川激甚災害後の激特事業についての現地調査を行うことを予定しており、その事前調査を行った。

【事業効果について】

平成 24 年北部九州豪雨時の災害ボランティア実施調査では、地元社会福祉協議会が有効に機能し、生活基盤の回復に関しては十分な成果を上げたことを報告したが、平成 18 年川内川災害においても社会福祉協議会が機能していたことが確認できた。ただし、大学生などが宿泊型で参加する場合は、社協では受け入れができないので、地元 NPO 法人がネットワークを利用して、受け入れを行ったことを確認した。大学生・高校生が泥だし等のボランティア活動に参加すると地元の方々は非常に感激・感謝されるので、NPO 法人等のネットワークを利用して派遣・受け入れの態勢を確立しておく必要があることを実感した。また、川内川激特事業の合意形成段階において

ープリター機能を果たしていたことが確認できた。平常時に、地元住民と河川管理者の両方と接触する機会の多いNPO団体が、緊急時、非常時に重要な役割を果たすことが理解できた。河川ごとに設置されているNPO法人の平常時活動のあるべき姿について、川内川での活動から学ぶ点が多い。

これらの分析結果については、別冊の報告書において詳細に報告する。



川内川激特事業現地調査



川内川激特事業現地調査意見交換会



九州河川災害ネットワーク交流会議
(筑後川フェスティバル in 南小国)



九州河川災害ネットワーク交流会議
(筑後川フェスティバル in 南小国)

2. 嘉瀬川ダム上下流交流事業―「感謝」と「おもてなし」プロジェクト―

本年3月、嘉瀬川ダムが完成し、6月には白石町への通水が開始された。1800年に完成した焼米のため池の水の受益者である白石町の農家から、移転を余儀なくされた方々に、今でも毎年秋の稔りが届けられている故事に倣い、嘉瀬川ダムの水の恵みが白石平野にもたらされたことに感謝し、白石平野で収穫された秋の実りと、白石町の個性的文化である餅つき（餅すすり）と鉦浮立を、富士しゃくなげ湖畔に建つ「水恵無限」の碑の前で神様に奉納し、嘉瀬川ダムに感謝する祭りを、白石町とNPO法人嘉瀬川交流軸で企画・実施した。

午前11時より佐賀市金立金比羅神社宮司の導きにより神事を行った後、「秋の収穫 嘉瀬川ダム感謝祭」を行った。荒牧実行委員長の開会の挨拶の後、田島健一（白石町長）が、水が白石町に送られたことに対する感謝の辞を、秀島敏行佐賀市長が地元富士町と嘉瀬川の水の恵みに対する感謝を述べられた後、音成幸雄嘉瀬川ダム対策協議会会長が歓迎の辞を述べられた。松永憲明佐賀市議会議員の来賓挨拶のあと、白石町の文化的遺産である「鉦浮立」と「餅つき」を奉納して式典を終了した。式典終了後、富士町民、白石町民、その他立会人として参加いただいた方々との交流会を行った。白石町と富士町の産物を使った数々の料理を「菖蒲御膳」の方々（富士町）が振る舞われる中、白石町に伝わる奇祭「餅すすり」の妙技が示された。感謝祭を行った水恵無限碑が建つ広場脇に上下流交流のあかしとして白石町の町花である桜と富士町の町花であるシャクナゲを植樹したことが披露された。

また、11月18日の週に、嘉瀬川ダムにかかわりのある10自治会（西畑瀬、菖蒲、栗並等）に協力戴いて、感謝祭に向けた「おもてなし」清掃を実施していただいた。

嘉瀬川ダム感謝祭実施プログラム

11:00 秋の収穫 嘉瀬川ダム感謝祭神事

神主： 高柳一敏禰宜 金刀比羅神社（佐賀市金立町金立）

11:30 感謝祭開始

進行役： 光武富雄（嘉瀬川交流軸理事）

1. 開会挨拶 NPO 法人嘉瀬川交流軸 理事長 荒牧 軍治
2. 感謝の辞 田島健一 白石町長
秀島敏行 佐賀市長
3. 歓迎の辞 音成幸雄 嘉瀬川ダム対策協議会会長
4. 来賓・参加者挨拶
5. 嘉瀬川上下流交流記念植樹 桜 1本（白石町町花）
しゃくなげ 8本（富士町町花）
6. 奉納
鉦浮立 餅つき（もちすすり） 等

12:00 嘉瀬川ダム上下流交流会
豚汁 猪肉・玉ねぎ等バーベキュー
餡子餅 黄粉餅
13:30 閉会

菖蒲ご膳
白石町



感謝祭神事



田島白石町長感謝の辞



秀島佐賀市長感謝の辞



白石町餅つき奉納



富士町おもてなし料理



嘉瀬川ダム感謝上下流交流

3. 出張出前講義

荒牧さが水ものがたり館館長は、佐賀市内外からの要請に応じて「さが水ものがたり館館長」名で、合計21回の出張出前講義を行った。

平成25年度 荒牧さが水ものがたり館館長 出張・出前講座一覧			
日 時	団 体	会 場	講演タイトル
5月15日(土)	平松清風大学	さが水ものがたり館	「佐賀の水ものがたり」
5月16日(火)	佐賀県建設技術支援機構	佐賀市文化会館	「大規模浸水危機管理計画」
6月4日(火)	日本学術会議土木工学建築学委員会 NPO法人「高遊外売茶翁顕彰会」	日本学術会議	「佐賀平野大規模浸水危機管理計画について」
6月6日(木)	午前午後2回講演	肥前通仙亭	「嘉瀬川の歴史—成富兵庫茂安から嘉瀬川ダムまで—」
6月19日(水)	夢さが大学	アバンセ4F研修室	「環境問題を考える」
6月20日(木)	久留米大学	久留米大学御井校舎	「有明海と筑後川」
6月30日(日)	東与賀まちづくり協議会	東与賀農村環境改善センター	「東与賀まちづくり協議会の発足に寄せて」
8月31日(土)	九州オープンカレッジ実行委員会	国立阿蘇青少年交流の家	「災害ボランティア現地調査報告」
9月13日(金)	筑後川大学実行委員会	筑後川防災施設くるめウス	「平成24年豪雨被災地の調査と災害ネットワーク」
9月26日(木)	夢さが大学唐津校	リフレ高齢者ふれあい会館	「環境問題を考える」
10月16日(水)	筑後川フェスティバル 九州河川防災ネットワーク交流会議	南小国町	「平成24年の調査概要について」
10月26日(土)	川のインストラクター養成講座 一般対象	さが水ものがたり館	「川と人・社会・文化の関わり」
11月3日(日)	佐賀市文化財課 シンポジウム「佐賀城の未来を考える」	県立美術館ホール	「佐賀城下再生100年構想が目指すもの—水辺風景と歴史の復活—」
11月5日(火)	夢さが大学えびすFM番組出演	えびすFM	「有明海について」
11月6日(水)	佐賀県建設技術支援機構 第3回技術研修会	アバンセ4F研修室	「佐賀低平地における地震・風水害防災・減災対策について」
11月20日(水)	佐賀市健康づくり課 ヘルスマイト養成講座1	南川副公民館	「有明海の環境について」
11月22日(金)	佐賀市健康づくり課 ヘルスマイト養成講座2	ほほえみ館	「有明海の環境について」
12月6日(土)	応用生態工学会	九州大学西新プラザ	「佐賀におけるラムサール登録へ向けた取り組み」
12月7日(金)	川のインストラクター養成講座 行政担当者対象	さが水ものがたり館	「川と人・社会・文化の関わり」
1月9日(木)	佐賀県有明海再生・自然環境課 有明海押しかけ講座	多久市中央公民館	「有明海の概況」
1月20日(月)	佐賀市地域づくり研修会	佐賀市文化会館中ホール	鼎談「佐賀市のこれからの地域づくり」
2月25日(火)	NPO法人有明海再生機構 有明海講座	アバンセ4F研修室	「有明海と防災について」
2月26日(水)	全日本建設技術協会 全国土木技術者講習会	佐賀市文化会館イベントホール	「水の神様成富兵庫茂安から現代へ」
2月28日(金)	鍋島公民館	鍋島公民館	「成富兵庫茂安から現代へ」
3月9日(日)	筑後川まるごと博物館運営委員会 シンポジウム「昭和28年筑後川大水害から60年～流域の変化と将来への課題～」	久留米大学御井校舎	パネルディスカッションコーディネーター

6) 打ち合わせ協議

実施計画書に従い、本業務を円滑に実施するために、平成24年4月より2か月に1度、及び事業最終月の平成26年3月、合計7回次の事項について委託者と打ち合わせ協議を行う。

1. 事務局員の勤務状況及び業務内容
2. 館の利用状況
3. イベント等の実施状況
4. その他の必要な事項

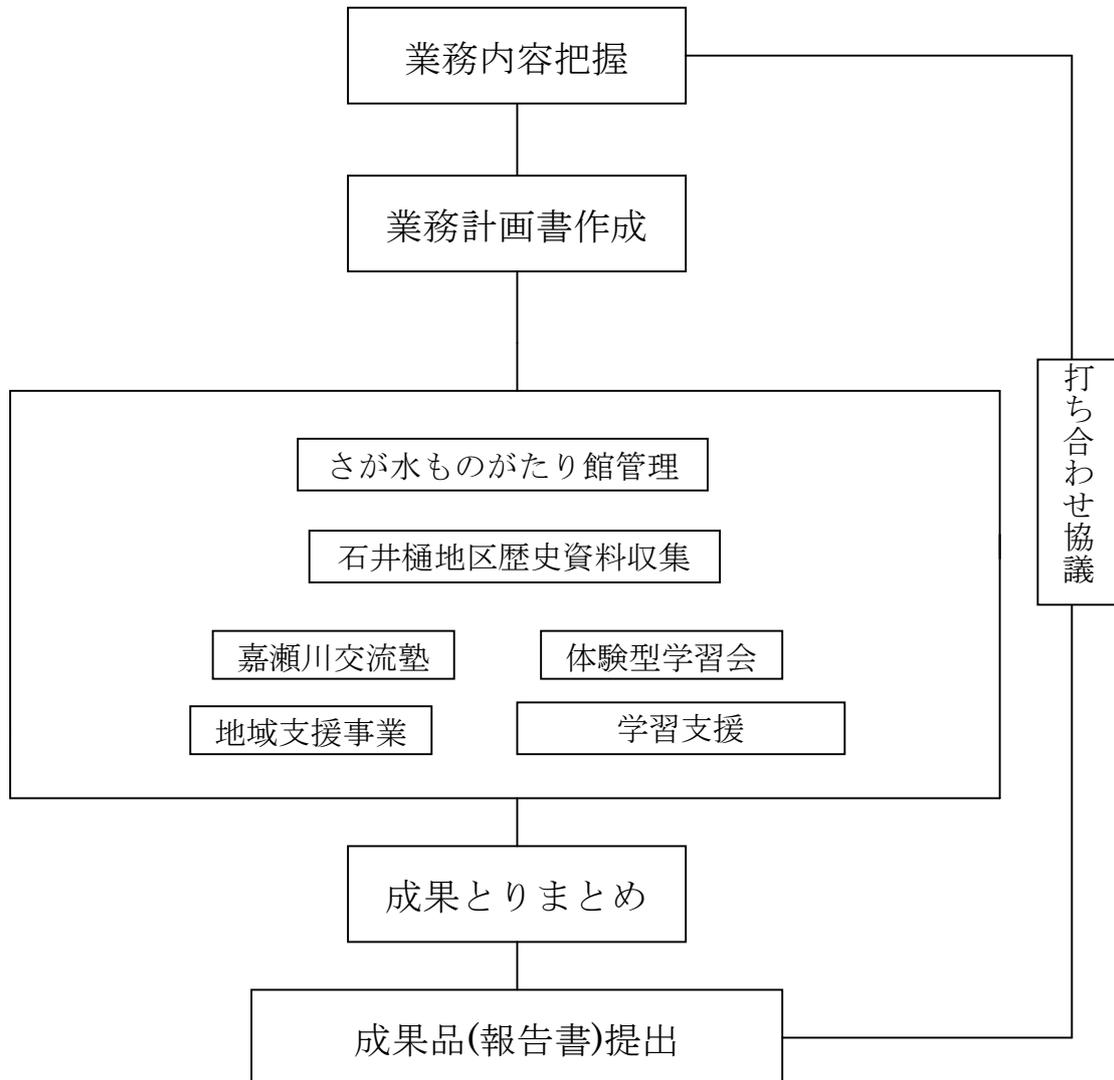
7) 業務工程

実施計画書に示した業務工程表に従って業務を実施した

業務工程表							
検討項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	備考
	業務計画策定	●●					
打ち合わせ協議	●●		●●		●●		
1) さが水ものがたり館管理	●	●	●	●	●	●	常時
2) 歴史資料収集	●	●	●	●	●	●	随時実施
3) 郷土学習支援	●	●	●	●	●	●	随時実施
4) 嘉瀬川交流塾	●●	●●	●●	●●	●●	●●	
5) 体験型学習会				●●	●●	●●	
6) 地域支援事業			●●				

検討項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	業務計画策定						
打ち合わせ協議	●●		●●		●●	●●	
1) さが水ものがたり館管理	●	●	●	●	●	●	常時
2) 歴史資料収集	●	●	●	●	●	●	随時実施
3) 郷土学習支援	●	●	●	●	●	●	随時実施
4) 嘉瀬川交流塾	●●	●●	●●	●●	●●	●●	
5) 体験型学習会		●●					
6) 地域支援事業		●●	●●		●●		
報告書作成						●●	

8) 業務進行のフローチャート



9) 成果品

業務の成果品として、次の書類を、委託者に提出する。

- 1) 運営報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1式
- 2) 成果報告書（実施計画に従って実施した事業）・・・・・・・・ 1式
- 3) 成果報告書（CD-R）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1式
- 4) その他調査職員が指示する資料・・・・・・・・・・・・・・・・ 1式

10) 業務実施体制

本業務は、以下の体制で実施した

受託法人： 特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

〒849-0203 佐賀市久保田町新田 3714 番地 5

電話 0952-68-3094 Fax 0952-68-3097

設立 平成 23 年 8 月 2 日 会社法人番号 3000-05-005962

運営責任者： 荒牧 軍治（NPO 法人代表） 業務の総括・企画・運営

週 4 日程度、さが水ものがたり館に常駐し、小学生への説明、イベント実施に当たる

スタッフ 1： 服部 二郎（NPO 法人事務局長） 業務の企画・運営

週 2 日程度、さが水ものがたり館で業務に当たった。

イベント企画・実施 歴史資料収集整理の責任者

スタッフ 2： 宮崎 順子（NPO 法人職員） 業務の企画・運営

週 5 日程度、さが水ものがたり館で業務に当たった。

イベント企画・実施

上記スタッフ以外に、さが水ものがたり館の管理補助及びイベントの運営に当たっては、学生等アルバイト及びNPO 法人理事・会員を参加させた。